

ワクチン接種後のギラン・バレー症候群(GBS)が疑われる*症例(重篤)

※抽出基準: 症状名がギラン・バレー症候群として報告された症例。

第93回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和5年度第1回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会

資料2-28

2023(令和5)年4月28日

期間	ステータス	No.	ワクチン名	年齢・性別	基礎疾患等	経過	接種後日数	症状名	転帰	プライトン分類レベル	因果関係	専門家の意見
報告対象期間前	再評価	1	エイムゲン(HAV06) 狂犬病ワクチン(輸入) (T1G14, T1G14) ヘプタバックス(U010773) 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン(鳥居株)*武田薬品(G935)	8歳・男性	なし	2022/08/01 2回目コミナティ接種。 2022/08/16 予診票での留意点:あり(コミナティ2回目も2022/8/1に接種) 10:30 Aクリニックにて、1回目エイムゲン(ロット番号HAV06)、1回目狂犬病ワクチン(他社品)、1回目B型肝炎ワクチン(他社品)同時接種。 2022/08/22* 8/22頃から足の痺れを自覚。 2022/08/23 10:30 Aクリニックにて、2回目狂犬病ワクチン(他社品)、2回目ムンプスワクチン(以前やっていたが、2回目をやっていたため)を接種。 2022/08/31 8/31頃から痺れが悪化。日中も起き上がらずに寝ていることが多くなった。足の筋力低下もありすぐ座る状況。 2022/09/01 左顔面神経麻痺も出現。独歩は可能だったが、歩容も変化ありつまづきやすくなった。 2022/09/06 当科入院し、検査で髄液蛋白・細胞数増多、脊髄MRIで馬尾の造影効果ありギランバレーと診断。 2022/09/08 治療開始した。 2022/10 免疫グロブリン製剤投与にて回復傾向にあり、外来治療に移行した。 【GBS調査票】 <<臨床症状>> ・2022年8月30日:両側性かつ弛緩性の上肢や下肢の筋力低下が発現。 ・筋力低下を来した上肢や下肢における深部腱反射の低下または消失。 ・報告時点までの、症状の極期におけるHughesの機能尺度分類:「1:軽微な神経症候を認める」 <<疾患の経過>> ・単相の疾患パターンを有し、筋力低下の発現から最悪の状態までの間隔が12時間から28日間であって、その後に臨床的安定期を迎えた。 <<電気生理学的検査>> ・不明 <<髄液検査>> 検査日:2022年9月8日 ・髄液検査:細胞数:37/μL、糖:59 mg/dL、蛋白:164 mg/dL ・蛋白細胞解離あり <<画像検査>> 検査日:2022年9月8日 ・馬尾の造影病変 <<自己抗体の検査>> ・未実施 <<先行感染の有無>> ・先行感染なし	2022/08/16 接種当日 2022/08/22 接種6日後 2022/08/23 接種7日後 2022/08/31 接種15日後 2022/09/01 接種16日後 2022/09/06 接種21日後 2022/09/08 接種23日後	ギラン・バレー症候群	回復	2	γ	